



図書室から Book Guide No.259

なぞなぞのみせ

なぞなぞ・石津 ちひろ
え・なかざわくみこ

徳成社
1000円+税

子どもたちが大好きな「なぞなぞ」の絵本です。ページをめくるたびに、文房具屋さん、洋品店、時計屋さん、八百屋さんなどが描かれていて、細かい描写になぞなぞをヒントが書き込まれています。今では少なくなりました商店街に、こんなお店があったなあとしノスタルジックな思いも大人は味わえ、子どもたちは「謎」を解くために一生懸命絵を食い入るように見ることが多いでしょう。全部で50の問題があって、各お店には5つずつの問題が用意されています。そして、問題だけでなく、絵からたくさんのお話を見つけてみることもできます。さあ、親子で10店舗をめぐるつもりで読んでみましょう。

なが い 小さな社会貢献 編集後記 91

◆年は明けたが、新型コロナウイルスの「収束」という光が見えるのはまだまだ先のようだ。子どもたちの学校生活も臨時休校が明けて通常授業は取り戻すことはできたとは言え、修学旅行も自然教室も学校生活の節目が中止となり、日常ではマスク生活を強いられている。マスク生活は子どもたちの顔が半分しか見えず、喜怒哀楽が判別しづらくコミュニケーションに影響を与えている。このような状況が解消されるのが「収束」された証なのだろう。

◆私自身も、好きな一人旅も城巡りも「自粛」したのははじめ、不要不急の外出を控えて墓参すら行っていない。それは、もちろん自分自身のためでもあるが、子どもたちと接するという職業柄、自身が感染して子どもたちにうつしてはならないと思うからだ。職場では出勤前に毎日検温をすることを求め、人生の節目でもあろう歓迎会も、親交を深める暑気払いも忘年会も「自粛」している。

◆やりたいことがやれないと「閉塞感」が漂う。戦時中の生活はきっとこのような「閉塞感」であったのか、いや、このようなものよりもっと強い「閉塞感」だったのであろうと思いを馳せる。このような「閉塞感」は多かれ少なかれ、意識するしないにかかわらず、誰もが否応なしに影響を受けている。コロナの状況が少し改善し、「Go to」などの施策が開始されれば「閉塞感」から解放されようと、我慢していた分、一気に様々な行動があふれ出すのは当然の摂理でもあろう。

◆しかし、歳のせい、元来物事を横目で見ると性癖のせい、「本当に大丈夫？」と私は思ってしまう。高齢者と言われるほど生きてきたのだから「様々な

経験をさせてもらい、多くの楽しみも味わってきたのだからそれほど焦って何か行動をする必要はない」と思う反面、「残された時間はさほどないのだから、できる限りの楽しみを味わうために早く行動を開始したい」との思いが交錯する。本音は行動を早くおこしたいのだが、「子どもたちへの感染源になってはいけない。まだ待て！」という理性が働く。

◆そんな時、命がけで働いている方がたに「感謝」を心でつぶやく。患者と接している医療従事者・緊急搬送者の皆さんにはもちろんのこと、子どもたちと接するという意味での同業者＝教師・保育士の皆さん、交通機関を維持していただいている皆さん・・・そして前線を支えている多くの皆さんがいる。医療従事者を守る防護服を作成している方、患者搬送した救急車を消毒する方、中等症患者が過ごすホテルを清掃してくださる方、清掃後の廃棄物を処理する清掃の方・・・

「医療崩壊」と言われるが、医療から連鎖している事象をみると「社会崩壊」と言えるのではないだろうか。

◆そのような社会状況で自分を振り返ると「我慢」は当たり前なことと思えるようになる。そして小さな社会貢献をしなくてはという気持ちになる。使用した不織布マスクは、毎日捨てることになる。私は捨てる時に使用済み封筒などに入れていた。もし、ごみ収集車の圧縮するときにごみ袋が破裂して使用済みマスクが飛び出したら、それを捨てる方はさぞかし不愉快だろうと思うからだ。センターに捨てられたマスクを捨てる時に自分がすごい不快感を感じるからだ。「大きな感謝の心と、小さな心遣い。そんなことでも立派な社会貢献」と年頭にあたり思いを新たにしたい。

統括館長：針山直幸



NPO Akaiyane 特定非営利活動法人 あかい屋根

NPOあかい屋根広報紙 発行: 特定非営利活動法人 あかい屋根 ひまわり編集部 044-976-0444

ひまわり 第 533 号 2021/ 1/ 1



昨年はコロナ禍により、子どもたちは休校となったり、思うように出かけることも遊ぶこともできなくなったりと、我慢の一年でした。マスクしているのが当たり前になり、修学旅行や自然教室も中止になり、それでも学校で友達と会える、おしゃべりができるといふ「当たり前」がどんなに大切なことかと思ふだと思ふ思います。本紙「ひまわり」も一時回覧を自粛して一日も早いコロナの収束を願った年でした。

しかし、年が明けたからと言って、その状況はまだまだ変わる様子はありません。一刻も早く感染状況が改善し、オリンピック、パラリンピックが無事開催されるようにと願うばかりです。

このような状況下ですが、少しでも明るい話題を、子どもたちが頑張っている様子を地域の皆様にお届けできたらと願ってやみません。今年も頑張ってください。どうぞよろしくお願ひ致します。

編集子一同



ひまわり人形劇 公演依頼殺到

昨年、コロナ禍によって菅生こども文化センターが臨時休館になり、一時、練習も中止していましたが、休館解除後6月25日には練習を再開。現在、講演依頼が殺到して嬉しい悲鳴を上げるほどです。

昨年11月2日に、稗原小学校わくわくプラザでの公演を皮切りに、有馬チェッコー、菅生こども文化センターあそべば、年明けの1月23日には新百合ヶ丘で「リリオス」、2月25日には「しらかし保育園」での公演が予定されており練習にも

力が入っています。このように沢山の公演依頼があるのは、きっとコロナ禍で、多くの方があまり出かけられない中での刺激を求めているのではないかと感じています。またそれに応えられるのは、練習場所に困らなかったことが大きいとも思っています。感染予防対策として覆面のような大きなマスクをしながら演じているのと、観客にも間を空けるようお願いしながらの公演ですが、子どもたちの反応に励まされながら楽しませてもらっています。

毎週木曜日午前中に、菅生こども文化センターで練習していますので、興味のある方は是非覗いてみてください。



冒険総合遊具「一旦」解体

何人の子どもたちを楽しませてくれたことでしょうか。8年間、センターの冒険遊具の象徴ともいえる総合遊具。地域の人たちの力を合わせて立ち上げたものですが、職員が何回も手を入れ、防腐剤を塗ったり単管パイプで補強したり大切にしてきました。建設当初「5年くらい持てば」と言われていたのですが、何とか永らえていたのですが、シロアリにやられ始め危険な状態です。現在使用中止にし、1月の中頃取り壊しにかかります。その後、子どもたちの意見を聴きながら、その場に新たな遊具を建設したいと思っています。

こども文化センターは地域の宝⑥

おやじの会「いたか」の誕生

菅生の女たちが盛んに「生き方」を学んで、いきついたところは、夫からの精神的独立、そして夫たちの考え方を再生させなくては、女性の自立は勝ちとすることはできないという結論でした。

当時「企業戦士」とまで呼ばれていた男たちは企業に根付いており、地域や家庭を作る女たちとの共同作業にはなり得ていませんでした。男たちは、家にいるときはテレビの前でごろ寝。子どもたちの教育は母親に任せてあると言い放ち、家事に忙しい妻たちが「手伝ってよ」と言っても「仕事で疲れているんだ。お前の仕事だろ」と何もしないのが当たり前の時代だったのです。そんな男たちがおやじの会を作った経緯をHPに載せています。

おやじの会「いたか」が発足したのは、昭和58年3月のことでした。

川崎市の高津市民館と菅生こども文化センターが共同で企画・実施した「父親学級」に参加させられた男たちが、10回のプログラム終了後、「せっかく知り合いになれたのに、このまま解散してしまうのは惜しい。これからは自主的に集まろう」と一人立ちしたのです。

参加させられた、と書いたのには訳があります。男たちのほとんどは「俺はちゃんと仕事をしてい



全国初ともいわれた発足当初

るのではないか、これ以上何をさせようというのだ！」と参加を拒んだのですが、「女房にしつこく言われ」ししぶしぶ出かけたのです。

当時、菅生こども文化センターの職員として父親学級の開設に力を尽くされた針山直幸さんは、そのいきさつを次のように語っています。「お母さんたちの勉強会では、いつもある問題にぶちあたる。＜女性の生き方＞＜子育ての方法＞どちらの学習からでも、障害となるのは共同生活者である我が亭主でした」。

この亭主どもを何とかしなければと、説得に勤め、時にはアルコールの匂いもかがせ、やって来たのは男14～15人。

地域は面白い

ようやく地域で動きを始めた男たち。会社と違って「地域では名刺を交換しない」が、いたかの掟でもありました。〇〇会社勤務で役職は〇〇とは無縁の世界が地域にはありました。会社を離れての付き合いの面白さを初めて知ったのです。

「いたか」のもう一つの面白さは、毎回違うテー

1月のお知らせ

新型コロナの感染状況で、変更・中止もあります



☎044-976-0444

6・13・20・27日(水) 14:30~16:30
あそべば 誰でも 無料
 6日 あけましてチャンバラごっこ
 13日 ボーリングボッチャ
 20日 ディスクゴルフ
 27日 節分飾りを作ろう

15日(金) 10:45~11:30
がらがらんど ペったんぺったんやってみよう
 未就学児とその保護者 無料

22日(金) 15:00~16:30
白玉パフェを作ろう
 1・2年 10名 200円 要申込 18日(月)×切

23日(土) 10:00~13:00
ONE ぱーく やってみようソロキャンプ
 3年生以上 15名 150円
 要申込 18日(月)×切

※1月の工作 折り紙絵馬づくり
 誰でも 無料
 やりたいときにスタッフに声をかけてください。



マで話が盛り上がったことでした。自分が極めている話を自身でもよし、興味あることに精通している人を招聘してもよし、会社では得られない、とっておきの話が展開される面白さを手に入れました。その出来事を家に帰って楽しそうに話をしたのでしよう。おやじの会のはずなのに、いつしか妻たちも話を聞きたいと集まるようになり、賑やかな例会となり、夫婦の会となっていきました。

子どもとふれあう楽しさを知る

センターの誕生日を祝う「わかば祭」に「いたか」も竹ぼっくり作りで出店。今では出来上がった竹ぼっくりを販売していますが、当時は子どもたちに鋸



☎044-977-2577

6・13・20・27日(水) 14:30~16:30
ぞうさんのポケット 誰でも 無料
 6日 シャンボかるた大会
 13日 忍者クラブ
 20日 こま道場
 27日 風船バレーボール



22日(金) 10:45~11:30
よちよちっこひろば よちよちはじめ
 未就学児とその保護者 無料

30日(土) 13:30~15:30
ぞうしき秘宝ハンター
 こ文と菅生分館にちりばめられたヒントを探し出しミッションを解きながらの宝探し
 小学生 20名 無料
 要申込 12日(火)受付開始~23日(土)×切

※1月の工作 ぶんぶんごま
 誰でも 無料
 やりたいときにスタッフに声をかけてください。



をひかせて自分たちで作っていました。様々な子どもたちとふれあう楽しさを知り、今では川崎市内全市を対象としたイベントにもおやじたちの力を示しています。



わかば祭で子どもたちと